

【Mother's Tree Japan Quarterly Report No.10】



7月2日（日）の12：00～14：00に、新宿区大久保のインドレストラン『ヒマラヤ』で、NPO法人Mother's Tree Japan創立3周年記念のパーティを開催しました。役員・会員、ご来賓の方々約30名が集い、理事長が和文と英語で簡単な挨拶（別紙）の後、美味しい食事と共に皆様お一人ずつからにぎやかな中にも共感と感動のコメントをいただきました。最後には国際医療福祉大学細谷幸子教授からイラダンスのご指導いただき、全員が微妙な手の動きと腰のひれり・顔の表情等のパフォーマンスをトライし、笑顔溢れる会となりました。ご参加者には楽しく有意義な一時を過ごしていただき、強い絆とコミュニケーションで結ばれ、次の開催を約して別れを惜しみました。これを機に皆さんと共に、一層の活動の展開とネットワークの拡充に注力したいと念じます。

理事長 坪野谷雅之

直近の具体的活動状況（4月～7月実績）



1. オンライン母親教室、中国語クラスの再スタート

昨年度までの言語に加えて、この春からメンバーに加わってくれた頼もしい中国語ボランティアメンバーの企画力とRED（中国の方がよく使うSNS）の発信で、今までなかなか繋がれなかった中国人の妊婦さんたちがオンラインクラスに参加してくれるようになりました！シリーズ化して情報を伝えるとともに、日本語も学べて相談もできるという構成を考えてくれ、資料まで用意してくれたメンバーのおかげで2回目は17人くらいの参加者がありました。

4. 豊島区からの委託付き添い事業の順調な滑り出し

通常外国人妊婦さんからの依頼による付き添い、保健所からの付き添い依頼に加えて、今年は豊島区の子どもの権利グループからの委託事業として、支援を必要とする外国人親子の付き添い通訳を受託し、順調にスタートしました。様々な事情を抱えながら日本で子育てを頑張っている家族をこれからも官民一体でサポートしていきます。

3. 対面での母親サロン（4月～7月）

3月から再開した母親サロンは毎回満員御礼で、会場の東部子ども支援センターに入りきらないほどの賑わいを見せています。夫婦揃っての参加が増えてきたことと、中国人メンバーの広報のおかげで中国人カップルが増えてきたのが特徴で、それぞれの言語の通訳メンバーと一緒に第3日曜日に開催しています。7月には熱中症警報が出たので、7月8日はお休みしましたが9月からまた再開します。



日本語サロン



子育てサロン



中国語の オンライン母親教室

4. 各種メディアからの取材

この春から初夏にかけてたくさんのメディアが当会の活動を取り上げてくれました。(NHK「あさイチ」、AERA、朝日新聞) JAPAN TIMESにも取材協力をして8月には掲載される予定です。現在は読売新聞からも取材依頼があり、この課題に各方面からの関心が集まっていることを感じてとても嬉しく思っております。これからも外国人女性の妊娠出産について周知に努めてまいります。



NHK「あさイチ」

5. 九州メンバー訪問と3つの交際交流協会との情報交換会

当会には、英語、ベトナム語、ベンガル語担当の3名のボランティアメンバーと直接会って親睦を深めると同時に、一緒に現地の病院に行ったり、国際交流協会に訪問して情報交換をしました。北九州、福岡、佐賀の国際交流協会の外国人妊産婦さんの現状やサポートのあり方について活発に話し合い、これからもお互いのできる協力をしていくことになりました。お時間をいただいた協会の皆様に感謝申し上げます。



九州の国際 交流協会訪問

6. 「産前産後子育てに役立つ日本語サロン」を開始

3月にスタートした日本語サロンですが、全4回の第1クールを終えて、第2クールに入っています。毎回たくさんの方の参加があり、みなさん本当に熱心に日本語の表現や単語を学ばれています。テキストも少しずつブラッシュアップしており、年度終わりには小冊子にして希望の方には販売できたらと思っています。3月まで第4日曜日に開催していきます。

7. 一般社団法人Team D. I. の「Living in Japan Online Salon」での活動紹介

コロナ禍で外国人住民のための情報発信を目的に始まった一般社団法人Team D. I.様のオンラインサロンで外国人ママのサポートの必要性についてと当会の活動をお話しさせていただく機会をいただきました。謝礼は当会の活動へのご寄付に回させていただきます。20名ほどの参加者が熱心に話を聞いてくださり、たくさんの質問をしてくださいました。

8.ベトナム寺院（大恩寺）訪問

全国の在日ベトナム人をサポートしている大恩寺のタム・チーさんを訪ねて、情報交換をしながら、ベトナム人実習生の赤ちゃん遺棄事件や医者との対話不足による難産や死産をどうしたら防げるのかを話し合いました。これからも定期的に情報交換を図るとともに、お産情報セットなどを寺院でも配布してくださることになりました。



9.技能実習生のための「日本での妊娠出産・避妊について」の講座開催

ベトナムやミャンマーの技能実習生に日本語を教えている高校生が運営するNPO団体ADOVOと、ベトナムの送り出し機関3Qとの協働企画で、技能実習に来る前の学生さんたちに、日本での妊娠出産と避妊、人生設計などについてのお話をしました。こちらも定期的に開催して、赤ちゃん遺棄事件などを無くしていく一助になればと思っています。



8.クラウドファンディングに挑戦中！

全国の外国人女性がこうしたサポートを受けられるように、活動の更なる充実を目指して6月26日からクラウドファンディングに挑戦中です。たくさんの方に温かいサポートをいただいております、感謝でいっぱいです。8月10日までです。応援よろしくお祈りします。

【今後の活動予定】（8月～10月）

- 1.豊島区からの委託事業「外国人住民のための子育てガイドブック作成」
- 2.「としまモデル」の地方自治体への普及
- 3.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画制作
- 4.産前産後、子育てに特化した日本語教室の定期開催と日本語サロン、オンライン相談会の定期開催
- 5.付き添い・寄り添い事業
- 6.特定認定NPO取得予定

事務局より

5月末からすでに猛暑の様相を呈していた今年の上半期ですが、何度も熱中症警報が出され、妊婦さんや赤ちゃんたちは大丈夫かな、と毎日心配しています。皆様お元気にお過ごしでしょうか。

7月に発行予定のクオータリーレポートでしたが、今年もクラウドファンディングに全力投球しており、発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。8月20日現在おかげさまでゴール達成！220万円を越えるご支援をたまわりました。この場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

クラウドファンディングの挑戦は、本当に相当の覚悟と労力が要ります。この日本で活動に支援をお願いすることがどれだけ大変か、身に沁みます。と同時に、皆様の善意、応援に触れて、活動を続けていく勇氣と力をいただきます！

3周年を迎えることができた今年からは、安定した運営に向けて学びと挑戦を続けてまいります。引き続きどうぞ応援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

【Mother's Tree Japan Quarterly Report No.11】



皆様、こんにちは！晩秋の季節となりましたが、お元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。コロナなどの流感も予断を許しません、社会的な活動も対面での開催が一般的になり、私たちの各種相談やイベントもほとんどが対面で実施されております。ズームでの勉強会や打ち合わせ会もすっかり定着し、全国にいる外国人女性が相談できるようになっています。さて、相談活動もNPO開設以来既に2,000件を超え、イベント回数も有に100件を超えております。引き続きこの3か月間でも取材依頼に接し、直近では読売新聞やYahooニュースでも取り上げられ、外国人女性のサポートについての関心の高さがうかがえます。一方では、NPOの法令・定款に則ったガバナンス遵守（管理運営・整備状況）をチェックする動きが見られ、当NPOも約1か月間「公益財団法人日本非営利評価センター」独自の幅広い基準での調査と審査を受けました。この11月に全ての項目で基準に適合であるとの結果報告を頂いております。引き続きご支援・応援のほどよろしくお願い申し上げます。明るく楽しく健康でご活躍されますようお願いしております！

理事長 坪野谷雅之

直近の具体的活動状況（8月～10月実績）

1.クラウドファンディングの成功と事業継続の御礼

おかげさまで、クラウドファンディングは、皆様の多大なるご協力のもとで成功し、226万円という目標を上回るご支援をいただきました。私たちの活動は、行政や病院だけでなく、外国人ママ当事者からの依頼を受けての寄り添い事業をしておりますが、言語や文化の壁を超えて日本人ママと同じスタートラインに立って欲しいという願いから、受益者負担をいただかない形で運営しておりますので、こうした皆様のお気持ちで運営を続けることができいております。厚く感謝申し上げますとともに温かい見守りをよろしくお願いいたします。

2.通常事業の相談件数依頼の増加

8月は猛暑のため対面での母親サロンや日本語クラスは見合わせましたが9月からは通常通り開催しています。オンラインは毎月開催し月30-45名くらいの参加者が助産師に様々な相談をして行かれます。LINEなどの相談件数や付き添い依頼は全国から急増しており、特にベトナム人女性からの相談がこのところ増えています。メンバーが手分けして寄り添い多くのベトナム人ママが無事に赤ちゃんを産むことができました。その他の傾向として、留学生の望まない妊娠とシングルマザーのサポートも増えており、日本での避妊のシステムを知らないことなどにも起因することがわかってきたので、今後避妊の情報なども伝えていく必要を感じています。





日本語サロン



子育てサロン



保育園の
書類サポート



オンライン相談会



子育て交流会

3. 豊島区からの委託付き添い事業

豊島区在住の外国人家庭で課題を抱えているケースを、通訳ボランティアとしてメンバーがサポートしてくれています。「ただ通訳する」というだけでなく、それぞれの立場を慮った上での通訳をしてくれるメンバーに対して、子ども家庭支援センターからも感謝の言葉をいただき、ボランティアメンバーたちを大変誇らしく思っています。引き続き3月までこうした相談に寄り添って参ります。

4. マスジド大塚での多文化共生イベントの実施

慶應大学の野中ゼミの学生さんと共催で、イスラム教徒のママと日本人のママたちが情報交換をして子育ての知恵を持ち寄る会を実施しました。バングラディッシュやパキスタンのおおらかな、昔ながらの地域の温かさの残る子育ての話聞いて、日本人ママが涙ぐんで癒されるシーンもありました。多文化共生子育ては、外国人女性と日本人女性の双方にとってとても有益であることを実感しています。これからもこうした活動を増やしていきたいと思っています。

5. 豊島区からの委託事業「外国人住民のための子育てガイドブック作成」事業

「外国人ママたちからの声を集めて本当に外国人家庭に役に立つ子育てガイドブックを作る」という豊島区のご提案のもとで、当法人のメンバーの力を結集して8月よりガイドブック作成に励んでいます。初めての事業で豊島区のご担当者に色々サポートいただきながら、作業は大詰めに入っています。

完成しましたらお披露目致しますので、お楽しみになさってください。

6. 「産前産後子育てに役立つ日本語サロン」大盛況 ～オンライン開催も検討～

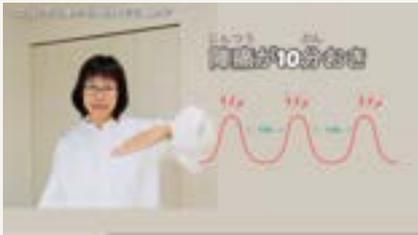
3月にスタートした日本語サロンは、全4回の第1クール・第2クールが11月で終了し、1月から3クール目に入ります。なかなかお産や子育てに特化した日本語クラスは全国でも例をみないため、毎回たくさんの方の参加がありイケビズの会場に入りきれないほどの賑わいです。毎回テキストも多言語のものが完成しつつあります。オンライン開催の要望も強いため、12月から開始するべく準備を進めています。

7. 豊島区の各種子育てパンフレット・リーフレット翻訳納品

豊島区からの委託で、子ども家庭支援センター、育児ヘルパー事業、バースデイサポート事業のお知らせなどを6言語に翻訳しました。情報がなかなか届きにくい外国人家庭にこうした情報が届き、子育てサポートを積極的に活用してくれるように願っています。

8. 外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画制作

日本財団の助成金で、外国人ママたちからよくある疑問・質問に答えるための多言語動画を作成しています。日本でのお産の基礎知識だけでなく、困った時どう検索したらいいのか、行政のどこに相談できるのかなども盛り込んだ、現実に即した動画です。現在シリーズの1、2が完成し、3、4、5、6を急ピッチで作成しています。1、2はWEBサイトからご覧いただけますので、ぜひ周りの外国人ママさんたちに教えていただければと思います。



9. 技能実習生のための「日本での妊娠出産・避妊について」の講座開催2回目

ベトナムやミャンマーの技能実習生に日本語を教えている高校生が運営するNPO団体ADOVOと、ベトナムの送り出し機関3Qとの協働企画で、技能実習に来る前の学生さんたちに、日本での妊娠出産と避妊、人生設計などについてのお話会、2回目を開催をしました。今回は一方的に話すのではなく、クイズ形式にして双方向になるように工夫しました。避妊そのものについての知識が少ないことや日本での合法的な避妊などはほとんど知識がないこともわかり、今後もこうした活動を続けていけたらと思っています。

10. 地方自治体や公立病院、保育園からの各種お問い合わせの増加

豊島区以外の自治体や公立病院、外国人家族が在園している保育園などからのお問い合わせが増えています。お問い合わせ内容は様々ですが、ほとんどのケースがタブレット通訳機能を使って対応してきたが信頼関係が結べない、コミュニケーションが取れていないと感じている、などのご相談で、真剣に外国人家庭と向き合ってくださいているのを感じてとても嬉しく感じています。私たちができるご協力をしつつ、どうやったらそれぞれのパターンの中でコミュニケーションがうまく取れていくのかなどについても担当の方と話しをしています。これからもこうした活動も続けていきたいと思っています。



送り出し機関での講座



九州での
赤ちゃんの
健診付き添い

11.ベーシックガバナンス

理事長挨拶でも触れましたが日本財団の助成を受けるにあたり、NPO法人のガバナンスチェックを受けました。とても厳しい審査でしたが無事通過いたしました。2020年より無我夢中で活動してきましたので、ここで一度体制などを整え直して、さらに安心して活動を応援していただける団体を目指して参ります。

12.マンスリーサポーター制度開始

活動内容が充実し、ご支援者の皆様にしっかり見える形になってきたことを受けて、マンスリーサポーターを募っていくことにいたしました。クラウドファンディングと同じくREADYFORのプラットフォームを使ってのご支援になりますが、初日から早速支援者になってくださった方もいらっしゃり、感謝でいっぱいです。

応援、また周知のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



13.日本財団への来年度の助成金申請完了（結果は3月頃になります）

メディア掲載

ジャパントाइムズに取材協力しました。（2023年8月14日）

読売新聞に取り上げていただきました。

「外国人の出産・育児を支える 先輩ママ 母国語で寄り添う」（2023年10月16日）

【今後の活動予定】（11月～1月）

通常事業以外に下記の活動・事業を進めて参ります

- 1.豊島区からの委託事業「外国人住民のための子育てガイドブック作成」納品
- 2.「としまモデル」の地方自治体への普及・情報のデータベース化
- 3.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画作成（3月完成）
- 4.多文化共生子育てシンポジウム（オンライン2回、対面1回企画中）
- 5.指差しボード新シリーズのさらなる多言語化（アラビア語制作中）
- 6.2024年3月3日 豊島区後援での多文化共生子育てフェスティバルに向けた準備
- 6.特定認定NPO取得に向けた体制づくり

事務局より

8月のクラウドファンディングでは皆様に多大なるご協力をいただき成功することが来ましたことを最初に改めて心より御礼申し上げます。8月から10月までは、通常の活動に加えてクラウドファンディング、各助成金の中間・終了報告などが続き、息をつく暇もありませんでしたが、外国人メンバーたちがそんな事務局の忙しさをカバーするかのようにならざるを得ず、そして、本当に心温かい寄り添いをしてくれました。

また、ガイドブックや動画制作なども、コアメンバーたちが動いていい形でプロジェクトを進めてくれ、組織がいい形で育っていることを感じて、とても嬉しい数ヶ月でした。

オンライン寄り添いは需要が広がり、北海道、秋田、名古屋、大阪、京都、九州など各地からの依頼が相次ぎました。どんなシーンでも見事に対応してくれる外国人メンバーたちのおかげで、無事に産まれた、という嬉しい声が毎月聞かれます。時に夜中までサポートしてくれ、産後の転院などの急なサポートにも笑顔で応えてくれるメンバーたちの報告を聞いていると胸が熱くなります。事務局はいつも大忙しですが、こうしたお母さんたちの笑顔、メンバーの活躍を見るとどんな時も力が湧いてきます！これからも応援よろしくお願い致します。

【Mother's Tree Japan Quarterly Report No.12】



皆さん、こんにちは！ 春はもうすぐ、お元気でお過ごしのことと存じます。特記すべき意義深いイベントとして（詳細は後記参照）、まず初めに、2月11日（日）に「品川区きゅりあん」で開催した『官学・市民で考える多文化共生シンポジウム』です。会場満員の参加者約90名は、登壇者の素晴らしい実践的活動のお話に感銘を受け、終了後はお互いの名刺交換や意見交換に賑わいました。次は、3月3日（日）の池袋の「イケビズ」での『多文化共生子育てフェスティバル』には、なんと260名が参加され、多彩な出店とパフォーマンスに親子共々くつろぎの一日を過ごされました。今一つは同日昼休みに、西口円形公園で、アルゼンチンタンゴのFlash Mob(街頭ダンス)を豊島区の後援で開催、アルゼンチン大使も駆けつけられ、多文化共生の一環として、大勢のダンス愛好者と区民が楽しみました。この3件の対面での大きなイベントの成功は、マザーズの新しい事業領域の1ページを飾るものであり、今後共こうした楽しく意義深いイベントを皆さんのご協力で開催していきたいと望みます。

理事長坪野谷雅之

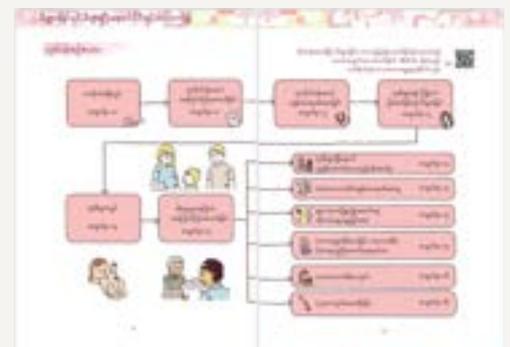
直近の具体的活動状況（11月～3月実績）

1.2023年度通常事業無事に終了

おかげさまで、3月31日をもちまして、2023年度の通常事業を無事に終了することができました。保健所や病院・保育園、ご本人からの希望で寄り添いサポート274人、相談61件、LINE相談686件、オンライン母親相談会341人、母親サロン215人、日本語サロン173人、総計1750人のママたちが利用し、母国語でのサポートや助産師からのアドバイス、情報交換を行い、多くの「無事に産まれたよ！」の報告をいただきました。出会えた全てのママたち、サポートに当たってくれたスタッフ、ご協力いただいた自治体や他団体のご担当者、そしてこの活動を支えてくださった全ての皆さんに感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

2.豊島区と協働で「外国人住民のための子育てガイドブック作成」（8言語）の完成

外国人ママの声を聞いて必要な情報を厳選した「外国人住民のための子育てガイドブック」が完成し、無事に納品することができました。アンケート集計・懇談会での情報収集から始まり、情報を選定してやさしい日本語で作成→多言語化→レイアウト→言語によって長さが全く違う中での気の遠くなるような作業を、日本人スタッフ・外国人スタッフが一丸となって頑張りました。区からの要望のあった6言語に加え、これから増加が見込まれるベンガル語・インドネシア語も加えての8言語28ページでの完成となりました。出来上がった時の感激はひとしおでした。



これからたくさんの人たちに活用していただき、安心して子育てを始められると思うと本当に嬉しいです。外国人メンバーからも「この作業に携われてよかった！」という声も上がりやりがいのある活動でした。



子育てサロン



付き添いサポート



オンライン相談会



日本語サロン



3.助産師・援助者向けの「やさしい日本語で産前産後をサポートする講座」開催

やさしい日本語講師の山市先生をお迎えして、産前産後をサポートするコツを学ぶ講座を開催しました。30人近いお申し込みをいただき、途中でグループに分かれてのワークショップ形式をとりながら、外国人妊産婦への声かけをみんなで学びました。とてもわかりやすいと好評だったので、また機会を作ってみみんなで学んでいきたいと思ひます。

4.官民学市民で考えるシンポジウム盛会でした（2024年2月11日）

多文化共生のことを官民学、それぞれから課題や取り組みを取り上げてディスカッションするシンポジウムを開催しました。品川区のきゅりあんの大会議室がいっぱいになるほどたくさんの方が参加してくださいました。共催の「IG科研」の細谷先生の総合司会、「東京パブリック弁護士事務所」の谷口弁護士のファシリテーションのもとで、人権・雇用・行政・共に生きる市民の視点、援助者の視点でそれぞれの登壇者の熱い思いが語られ、アンケートでも高い評価と前向きな感想をたくさんいただきました。終了後も会場の使えるギリギリまでディスカッションがあちこちで繰り広げられていました。



5.多文化共生子育てフェスティバル第一回大盛況でした（2024年3月3日）

日本人には様々な子育てを知ってもらい、外国人ママたちには自分たちの文化を誇りに思ってもらいたい、設立当初から夢見ていた、多文化共生子育てフェスティバルが開催されました。それぞれの国の子育て文化を紹介するブース、立教大学や地元企業である良品計画、豊島区、世界の絵本などの様々なブースに加え、タイのヨガ、ネパールのベビーマッサージ、世界の手遊びを紹介するイベント、そして東京芸術大学の宮本先生とのコラボレーション企画で、在日ミャンマーのママたちの気持ちを詩のアートにした「母たちの森をゆく」も、全てが大盛況となり、予想を遥かに上回る260名を超える日本人・外国人家族や関係者が来てくれて、大変賑やかで楽しく有意義な1日になりました。

第一回多文化共生 子育てフェスティバル



新しい命を真ん中にした多文化共生のと言う私たちの方向性に光が見え、大きな手応えを感じたフェスティバルでした。「また来年もやってほしい！」という声をたくさんいただきましたので、ぜひ来年度も実現できたらと思っています。ご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

6. オンラインシンポジウム「フィンランド かながわの事例から」開催

フィンランド在住の移民の福祉を研究されている下村様と、かながわ国際交流財団の福田様をお招きしてのオンラインシンポジウムを開催しました。当日参加とアーカイブ視聴ができるように設定しての開催でしたが、両方合わせて80名を超える方々に届けることができました。かながわ国際交流財団の取り組みのご紹介の中では外国人ママたちのとまどいをビデオで追体験できるようにご紹介くださるなど、わかりやすい説明に多くの皆さんが共感されていました。日本と同じく超少子高齢化を迎えるフィンランドの事例の中では、難民申請中であっても人権を尊重しフィンランド語教育や暮らしのガイダンスを、お金を支給して受けてもらい、「良き納税者になってもらう」と言うフィンランドの一貫した姿勢に感嘆の声が聞かれました。人口数や税率、人権意識が日本とあまりにかけ離れていて羨ましいと思う反面、一周回先に進んでいるゆえの悩みなども共有していただき、意義深いシンポジウムとなりました。



7.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画制作⑥シリーズの完成

外国人ママたちからよくある疑問・質問に答えるための多言語動画を作成し、6言語字幕付きでリリースすることができました。日本でのお産の基礎知識だけでなく、困った時どう検索したらいいのか、行政のどこに相談できるのかなども盛り込んだ、現実に即した動画です。また、行政の方から見て外国人ママたちがどこに躓きを感じやすいかがわかりやすいように構成を工夫しました。下記からご覧いただけますので、ぜひ検索ください。2024年はこちらの普及にも努めてまいります。(https://mothers-tree-japan.org動画マークからみられます)

8.お産情報セット291セット無償配布できました(累計421人)

「日本にはいい資料があったとしてもサイトも日本語だし、そもそも家にパソコンもプリンターもないから」そんな外国人ママのつぶやきから始まったお産情報セットの無償配布。希望者には母国語の母子手帳もつけてお産に必要な情報をプリントアウトし、**2023年度中には291人のママに、累計で421人の母となる人たちに届けることができ、たくさんの「ありがとう！」**のメッセージをいただきました。このサービスも継続したいものの一つです。

9.九州・京都での母親サロン開始

九州・京都メンバーが自発的に企画してくれて、母親サロン(兼用日本語教室)を開催することができました。人数は少ないながらも助産師、お産ドゥーラを中心に心通う温かい会となり、次年度以降も続けて行けたらいいなと思っております。メンバーの頑張りに心からの感謝です。



九州・京都での
母親サロン

【今後の活動予定】(4月~6月)

日本財団への次年度の助成金申請不採用と
新たなチャレンジ

- 1.豊島区からの委託事業「外国人住民のための子育てガイドブック作成」のプレスリリース
- 2.「としまモデル」の地方自治体への普及・情報のデータベース化と普及
- 3.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画の普及
- 4.指差しボード新シリーズの書籍化と普及
- 5.東京芸大とのコラボ企画「母たちの森をゆく」公演(11月頃)
- 6.理事会・総会(5月)

事務局より



気温差の激しい2、3月でしたが皆さんお元気でしょうか。1.2.3月はイベント続きで飛ぶように過ぎて行きましたが、全てをいい形で開催することができました。そして今年度はやってみたく思っていた事業をほぼ全て試行錯誤しながら着手することができました。皆様に改めましてお礼申し上げます。今年度だけで、この小さなNPOが延べ1750名の外国人ママたちをサポートできたことは、一人一人の情熱と力の結晶と皆様からの温かいご支援の賜物以外の何ものでもありません。心より感謝申し上げます。

「このまま全力でいける!」と意気込んでおりましたが、通常事業を申請していた日本財団の助成金が残念ながら通らず、次の助成金が見つかるまでは、ボランティアメンバーのご厚意に甘えてオンラインの活動をメインに少しペースダウンして活動していくこととなります。

NPOの運営はご寄付・助成金・委託のバランスをとることが大切と言われますが、私たちも次年度は創意工夫しながら安定した運営をしていけるように頑張りたいと思っております。5年目を迎える今が正念場、どうぞみなさま引き続き温かい応援やアドバイス、見守りをよろしくお願い申し上げます。どうかご自愛なさって素敵な春をお過ごしくださいませ。